

# 研究の概要

20 20 年 8 月 20 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	Day3時の発育遅延がみられる胚盤胞の有用性
代表研究者 (所属・氏名)：	生殖技術部門・大浦 朝美
研究の目的：	Day3時に4細胞以下の胚(遅延D3胚)でも胚盤胞(BL)まで到達することがある。そのような胚を移植する意義があるのか、通常のBLとの違いは何か後方視的に検討した。
調査データ該当期間：	20 19 年 4 月 1 日 ~ 20 19 年 8 月 31 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	2019年4月~8月に採卵を行い胚培養中に培養器が撮影したタイムラプス画像をもとに分割の正常率と臨床的妊娠率、流産率のデータに使用した。
個人情報の取り扱い：	患者試料を分析する際には、連結可能匿名化をする。また試料の分析から得られる情報についても、厳重な管理とセキュリティ体制の整備を徹底し、連結可能匿名化を行い、符号のみで取扱うので、個人情報は公開されない。
本研究の資金源 (利益相反)：	なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	06-6534-8824 生殖技術部門・大浦 朝美
備考	